

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○日常的な外出支援
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○電話や手紙の支援
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名	グループホーム すこやか
(ユニット名)	すこやか 1F
記入者(管理者) 氏名	遠藤厚子
評価完了日	平成 19 年 3 月 31 日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービス事業所独自の理念をつくりあげよう検討している	○	現在の理念に「地域住民との交流のもとで」を付け加え、具体化する。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し、それを基に月一回の勉強会、ケースカンファレンスと毎日のカンファレンスで話し合い実践している。(カンファレンス時は自由に発言できる雰囲気である)		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	①理念を見えやすい所に掲示してある。 ②入居時、契約書、重要事項説明書にて詳しく説明している。(家族に対して) ③地域に対しては運営推進委員にて、地域代表者に説明している程度である。	○	ホーム便りを発行して、より地域の人へ理解してもらおう。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立地条件が悪く、場所が分かりにくいですが、時折通る人に声を掛けたり笑顔で手を振ったりして努力をしている。(裏にサイクリングロードがある。)	○	①地区の行事、自治会等への参加を多くし、アピールしていく。 ②分かりやすい看板を設置する。 ③建物が施設風なので、環境づくりをしてあたたかみをだしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事(村祭り、初市等)や買い物等で、挨拶程度の付き合いである。	○	①運営推進委員会議を行った事で、地域の行事やサークル等を詳しく知る事ができたので積極的に参加していく。 ②ホームの行事にも地域の方に参加してもらったり、ボランティアを募る等して交流を深めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	①利用者の生活支援が主体となっており、地域貢献は行っていない。 ②法人自体で、介護教室を年一回行っている。	○	地域貢献についてどのような方法があるか、利用者も含め話し合いをもち取り組んでいく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	①評価後、意義や結果について話し合いをもち、全員に周知している。 ②評価を活かして改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	報告、意見を基に少しずつサービス向上につながっている。		積極的に会議メンバーにはたらきかけ、どんどん意見をもらい改善につなげていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	①グループホーム連絡会にて、市の担当者と共に質の向上について話し合っている。 ②日々のケアで困った事(特に新しく取り組んでいる看取りについて)、解決のできない時は、会津保健福祉課に相談して解決している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	①資料などで大まかに理解している。 ②必要性のある使用者がいなかったため活用していない。	○	大まかには理解しているが、勉強不足があるため学習会を開き学んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①職員全員で研修等、学ぶ機会を多くもち周知している。 ②絶対に起こらないよう虐待防止に努めている。		虐待防止は今後も徹底し続行する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて丁寧な説明を行い、利用者と家族の不安や疑問をひき出している。また、それに対して再度説明し理解、納得を図っている。		今後も丁寧な説明を続行する。
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①自由に意見、要望、苦情を言えるような関わりをしている。 ②何か行うときは相談したり、話し合いをして決定している。		より自由に意見、要望、苦情を言いやすいよう、取組んでいきたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	①一ヶ月に一回、お便りを発送して暮らしぶり、健康状態等お知らせしている。また面会時や電話での、きめ細かな連絡を行っている。 ②金銭管理についても収支を必ず目を通してもらっている。		今までの取り組みを続行する。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①意見、要望、苦情等を気軽に表せる体制を設けている。 ②受けた意見、要望、苦情に関しては速やかに取り入れ、サービスの向上へつなげている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一、二階の合同の勉強会と、各階のカンファレンスを設け自由に意見を表せる機会を設け反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	話し合いをして柔軟な調整に努めているが、職員の急な病気による欠員等で対応しきれない時がある。	○	利用者の重度化、要望、希望に柔軟の対応ができるような方法を導き出すための話し合いをもっていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	①法人内異動、私事による退職もあるがダメージを防ぐ配慮をしている。 ②職員全員が同じ対応、ケアができるようケアプラン実施記録表を作っている。 ③朝のカンファレンスで詳しい話し合いをもっている。 ④プリセプター制度を取り入れている。		異動してきた職員に対してのオリエンテーション資料集やケアのチェック表を作っていく。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①法人全体で取り組んでいる。 ②良い研修があると受講している。 ③一ヶ月に一回、(一、二階合同)勉強会を行っている。 ④働きながらお互いの意見を交換したり、指導したり専門性と人間性を深めている。		①外部研修の回数が少ないので機会を多くする。 ②自己啓発のため、自分から積極的に研修に参加するようにする。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市全体のグループホーム連絡会に参加し勉強会や意見交換会を行っている。		ホーム間の訪問や実習を行い、質を高めていく。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	皆で話し合い、一時間昼休みをとれるようになった。(以前は常に利用者と一緒に過ごしていた)	○	今後もストレス軽減に向け、話し合っていきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	目標評価がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	/	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	/	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	/	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	/	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として、尊敬している。また昔とった杵柄から生活の中で色々教えていただいている。職員は利用者のできないことをちょっとお手伝いして、助け合い、喜怒哀楽を共にし、より良い生活を送っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	①家族間に差がある。本当の子供がおらず、甥や姪の場合は特に難しい。 ②個々の家族に合った関わりあいをしなが、少しずつ理解してもらい、支えていく関係を築いている。	○	①行事、誕生会等に参加してもらっているが、全員でないのではたらきかけていく。 ②ケアプラン説明時、家族と本人へ一緒に説明し理解を深めてもらう。 ③家族の気持ちを深く理解できるよう、面会時等を利用して話す時間を多く設ける。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	①最低でも一ヶ月に一回は、面会、外出、外泊の機会をもってもらっている。 ②本人の暮らしぶりを伝える時、家族に喜んでもらえるような話題を多くしている。	○	①家族が来れない時は(相談して)ホーム側で本人を家へお連れしていきたい。 ②家族の苦しみ、悩み等も時間をかけ聞いていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふる里訪問、馴染みのラーメン屋や商店、床屋、知人の家、病院へ出掛けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が共に助け合い支えあって暮らす事の大切さを十分に話し合い、関わりが円滑になるよう支援している。	○	①一人一人の力をもっとひき出し、心のつながりを深めていく。 ②気の合う人同士、コミュニケーションをとれるように環境づくりをする。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	①退去後も相談や支援に応じている。 ②長期入院で退居になった方には、お見舞いに行ったり家族の付き合いも大切にしている。	○	現在取り組んでいる事を続行する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①本人、家族より直接希望を伺い、その人らしい暮らしを続けられるよう支援している。 ②日常の会話の中から、希望や願いを聞き取り叶えられるよう支援している。 ③ケアプランの説明時、再度希望を確認する。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネージャーより時間をかけ、詳しく把握している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	いきいきと、より良い人生を送っていただけるよう把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	①本人、家族より希望や願い事をひき出し、作成している。 ②毎朝のカンファレンスと、月一回の全員参加のカンファレンスで意見やアイデアを出し合い、作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	①毎月、モニタリングを行い見直している。 ②変更や不足な点が生じた時はカンファレンスを行い、ケアプランを立て直している。それを本人、家族に説明し再確認を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①個別記録を毎日実施し情報を共有している。 ②ケアプランチェック表を作成し、実施しているか確認している。また見直しに活かしている。	○	職員一人一人の感性を磨いて、利用者の言動から、その人らしさをひき出せるような記録にしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	/		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年に一、二回、蕎麦打ち等のボランティアは行なっているが、ほとんど連携がない。	○	ボランティアの情報を収集してどんどん受け入れていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行っていない。	○	必要があれば支援していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	"	○	勉強したり地域包括支援センターとの話し合いをもっていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医に診療を受けている。関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援していく。		これからも健康に過ごせるよう、かかりつけ医との関係をより良くしていく。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	①専門医による診断、治療を受けられるよう支援している。 ②精神疾患専門医師のため、認知症に対しての知識が薄く、相談しても良い結果が得られない。	○	認知症に関する相談ができる医師を確保し関係を築きたい。
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	①入院時、状態にあわせ面会をして安心につなげている。 ②また、早期に退院ができるよう、病院側にはたらきかけ情報交換を密に行なっている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	①重度化、看取りについての指針ができており、看取りの時期になった時、再度周知している。 ②本人の意向は家族より情報を得ている。		新しく入った方に対しては、終の棲家である事を説明しているが、以前に入られた方に関しては徐々に話し合いをしていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルや看取りについては、皆で話し合い気持ちを一つにして取り組む事ができた。その際、医療チームともよく話し合い、体制を整備した。		今後より安心して終末期を暮らせるよう話し合い、検討を重ねていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	①自宅へ戻った方に対しては、担当ケアマネジャーを含め本人、家族と十分に話し合いダメージを防止している。 ②入院になった方に対しては、医療側と話し合いをもったり、面会を多くしたりしている。	○	今後も、よりダメージやストレスを軽減できるよう取組んでいきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	①常に人生の大先輩として尊敬した言葉遣いや対応をしている。 ②自尊心が傷つかないように、また、高めるようなはたらきかけをしている。 ③常にチームで話し合い、心がけている。		今後もカンファレンスを行い徹底していきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人一人の思いや希望を自由に表出できるように一対一でのコミュニケーションの時間を多くとっている。その際、聴き受容する事を大切にしている。②コミュニケーションからひき出された事をケアプランに取り入れている。	○	今後も、もっと自由にのびのびと自分の希望や願いを表出し、いきいきと暮らせるよう支援していく。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の希望に副えるよう努力し各々のペースで過ごしていただいている。		①寝る前に入浴したいとの希望があり、取り入れていきたい。 ②職員が一人一人の思いをキャッチする能力を高めていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	①その人らしい身だしなみ、おしゃれができるよう支援している。 ②理、美容は本人の希望の所に行っている。	○	おしゃれ教室にも参加したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①一人一人の力を把握し、炊事に参加していただいている。後片付け時は皆さんで楽しそうに行なっている。 ②食事中は会話をしながら楽しく頂いている。 ③一人一人の好き嫌いにも配慮して提供している。		食事準備時、もっと自然な形で行なえるよう検討していきたい。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人の嗜好に合わせて希望に副い支援している。(コーヒー、晩酌、お菓子等)		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつ使用者はおらず、排泄パターンを活かし、さり気なくトイレ誘導している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	①入りたい時に回数や時間に関係なく、ゆっくり入っていただいている。 ②職員一人での入浴対応は安全性に欠けるため、寝る前の入浴は行っていない。		就寝前の入浴については希望されている方がいるので検討していきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	①一人一人の生活習慣を把握して、一人でゆっくり過ごす時間を大切にしている。 ②就寝時間もその人のペースに合わせ、安心して気持ち良く眠れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	①生活歴から、一人一人の得意な事を基に役割をもって活躍していただいている。(炊事、裁縫、畑仕事等) ②外食、買物、散歩等希望されたら、すぐに出掛けている。		これからも、どんどん希望や願い事を表出していただけのように職員の能力を高めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①その人の希望や力に応じて、お金を所持したり、いつでも自由に使えるよう支援している。 ②家族とも常に話し合い承諾している。		今まで通り本人、家族と相談して支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食、買物、散歩、ドライブ等行きたい所へ出掛けられるよう支援している。		他の利用者様が病気で病院受診などある時はそちらを優先する。良く説明して、お互い助け合える気持ちをもてるよう支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と温泉、外食、遠方の友達の家、昔働いていた会社等出掛けられるようにはたらきかけ、支援している。		家族間で協力を得られない方もいるので、はたらきかけていく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙の希望時はすぐに対応している。電話は個室で他の人に聞こえないよう配慮している。		今後も自由にできるよう家族とも話をしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	①訪問を歓迎し、明るく迎える。 ②利用者の状況に合わせ、時間、曜日に関係なく気軽に訪問していただいている。 ③飲み物を準備して、ゆっくり居心地良く過ごしていただいている。		もっと色々な人に訪問していただけるよう、オープンにしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所当初から行なった事がない。する必要がなかった。		今後も身体拘束は絶対に行わないようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	①鍵をかけず自由に一人で外出していただいている。 ②一人で出て行った時は黒子のように後をついて行き、迷った時は声掛けしている。		今後も鍵をかけず自由に外出できるよう支援する。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のペースやプライバシーに配慮しながら、常に所在確認をしている。		今後も事故等につながらないように所在確認に配慮していく。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	①針・はさみ、包丁等自由に使えるよう提供している。(使用する前、使用した後は数を数え保管している。) ②利用者の状況に合わせ対応している。		今後も自由に使い、力を発揮してもらえよう安全に配慮し支援していく。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	①法人全体での勉強会やリスクマネジメント委員会があり周知されている。 ②ひやりはっと事故報告書を書き早めの対策を講じている。	○	重度化に伴いADL低下が予想されるため、今後も充分な話し合いを行い取り組んでいく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	①救命救急講習があり、知識習得や訓練を行なった。 ②上記を定期的に行なっているわけではない。	○	毎月の避難訓練に合わせ応急手当の訓練も行っていく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	①昼夜を設定しての地震時、火災時の避難訓練を毎月一回実施している。 ②法人内の協力が得られるような連絡体制ができあがっている。	○	①今後も定期的に行い、より良い避難体制を作っていく。 ②消防署との連携をとり、訓練時参加してもらう。 ③運営推進会議を活用して、地区の消防団にも働きかける。 ④法人全体で備蓄はあるが、グループホーム用として、それぞれに準備する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	①一人一人に予測されるリスクを回避できるよう対策をたてている事を家族に説明している。 ②リスクを回避する対策をたて、自由な暮らしを大切にしている。 ③ひやりはつとを多く提出し事故を予防する。	○	ひやりはつとを多く提出し予防策をたて、事故を防ぐ。
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人一人の普段の様子をよく把握し、小さな異変にも気づいている。	○	今後も継続する。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①受診ノート、処方薬ノートを参考に一人一人の服薬の支援をしている。 ②飲み忘れ、誤薬の予防策をたて対応している。	○	今後も誤薬、飲み忘れに注意し確実な内服ができるよう支援していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人一人に合った予防をしている。(バナナの摂取、水分、オリゴ糖、腹部マッサージ等)	○	今後も便秘せずスムーズに排便できるようにしていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	①口腔ケアの重要性を理解し、本人のできない部分を手助けしている。 ②毎食後行ない、入れ歯の方に対してはポリデント消毒を行なっている	○	今後も一人一人の力をひき出しながら、口腔内の清潔保持に努める。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態を把握し支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防策、早期発見、早期対応策のマニュアルがある。	○	今後も継続していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	①新鮮で安全な食材を使用している。 ②台所の衛生管理の方法についてマニュアルがあり全員周知している。 ③食材の保存にも取り決めがある。	○	”
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	①あたたかみのある案内板を作成中である。 ②玄関周りや庭に観葉植物や花をたくさん植え親しみやすい環境を整備中である。	○	今後も計画をたて、玄関周りや庭の整備に努めていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①季節の花を飾ったり、季節毎に小物を変えたりして季節感やあたたかみをだしている。 ②やわらかな照明を用いている。 ③静かな音楽や童謡を流し気持ちが安らぐよう配慮している。		今後も継続していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①廊下に二箇所、玄関に長い椅子を置き、工夫している。 ②気の合った方同士、お互いの部屋でお茶飲みができるよう配慮している。	○	”

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>以前使用していた物、思い出の深い物等できる限りたくさん持ってきてもらう。(タンス、仏壇、時計、写真、アルバム等)</p>		<p>今後も居心地良く過ごせる部屋作りに努める。</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>①換気の時間を決め、窓を開けている。 ②温度計、湿度計を用いて活用している。 ③エアコンは外気温と大きな差がでないよう設定し、きめ細やかに調節している。</p>	○	<p>感染症予防対策にもなるので今後も続行する。</p>
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ADLの状態に合わせ手すり、滑り止めを設置したり、シルバーカーを使用したりして自立した生活を送っている。</p>	○	<p>今後もADLの状態に合わせ検討していきたい。</p>
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>①部屋には本人が分かりやすいよう絵が描かれていたり、大きな字で名前を書かれたりしている。 ②日めくりがあり、その日の月日が一目で分かるようにしてある。</p>	○	<p>今後も継続していく。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>①すぐ裏がサイクリングロードになっており景色も良く、散歩道になっている。しかし、ホームからそこに行くまで段差や危険な階段がある。 ②畑や庭があり、草むしりをしたり作物、花を作って土に親しんでいる。</p>	○	<p>①危険な場所がたくさんあるためリスク委員会に提出し改善してもらう。 ②広場があるが、夏は直射日光が厳しいためパラソルの日除けを購入していきたい。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ② <u>少しずつ増えている</u> ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① <u>ほぼ全ての職員が</u> ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ② <u>利用者の2/3くらいが</u> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ② <u>家族等の2/3くらいが</u> ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 利用者様が、尊厳をもってその人らしい生活を地域の中で送る事が出来るよう、職員一人ひとりが専門性、人間性を日々高める姿勢である。
- 職員全員が利用者様の生活歴について熟知しており、奥の深いコミュニケーションが図れる。
- 生活の中での炊事・裁縫・畑仕事等、得意とする分野で役割を担い、主人公となれる場を作り、自信へと繋げている。
- 職員間の連携、チームワークがとても良く、より良いサービスへ繋げている。
- 出来る所、出来ない所を理解して、出来ない部分を手伝い、個性にあった自立支援をしている。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○日常的な外出支援
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○電話や手紙の支援
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名	グループホーム すこやか
(ユニット名)	すこやか 2F
記入者(管理者) 氏名	遠藤厚子
評価完了日	平成 19 年 3 月 31 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービス事業所独自の理念をつくりあげよう検討している	○	現在の理念に「地域住民との交流のもとで」を付け加え、具体化する。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	①毎月一回グループホーム勉強会、毎月一回フローアカンファレンス、毎日の申し送り後カンファレンスを行いケース対応を検討し実践している。職員全員が自由に自分の意見をいえるような雰囲気作りをしている。 ②理念を共有し理念に基づいた支援を行うべき常に話し合いの場を設けている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	①事業所独自の理念をつくりあげ掲示。家族へは入居時、契約書・重要事項説明書にて詳しく説明している。 ②運営推進会議にて地域代表者に説明している。	○	グループホームの理念、役割が地域に理解され広めていくために説明会、すこやか便り発行などに取組んでいきたい。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	①法人施設敷地内の奥にあるという立地条件や建物が施設風ではあるが気軽に立ち寄って頂きたい旨お伝えしている。 ②行事、畑などを通し近隣の方々との交流がある。	○	①グループホームの啓発、広報に取り組む。 ②グループホームの所在を誰がみてもわかるように看板設置する。 ③建物が施設風であるので環境を整備する。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	①地域行事参加している。 ②普通に生活を送るのに地域住民の方との交流が必要であるが地域の一員となって行事に参加するまでには到っていない。	○	①運営推進委員会議を行った事で、地域の行事やサークル等を詳しく知る事ができたので積極的に参加していく。 ②グループホーム地元地区内、地域活動に参加していきたい。 ③地域の保育所、グループホームとの交流企画中

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホーム利用者の生活が主体となっており地域貢献に到っていない。話し合ってもいない。	○	地域の活動や状況についての情報を集め役立つことがあれば貢献できるよう前向きに取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価にて指摘された事柄について評価を活かして早急に対処、改善にむけ努力している。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①運営推進会議（平成18年10月から）2ヶ月に1度開催している。 ②報告、意見を基に地域への周知向上に取り組んでいる。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	①グループホーム連絡会にて、市の担当者と共に質の向上について話しあっている。 ②日々のケアで困ったことは会津保健福祉事務所福祉課に相談して解決している。（新しく取り組んでいる看取りで解決）		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	①権利擁護、成年後見制度について各自知っていると学んでいると思う。 ②制度のあることは理解し知っているが、必要な利用者がいなかったため活用していない。	○	制度について知ってはいるが、勉強不足な面があると思われるので職員皆で学んでいきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	①虐待関連法について各自学んでいると思う。 ②虐待防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を行い個々の立場にたって解かり難く、不安が生じていないか確認している。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①意見、不満、苦情を引き出せるような関わり方をしている。 ②利用者の意見などを聞き速やかに対処し運営に活かしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	①健康状態の変化は定期的に行っている。 ②すこやか便り月1回発送し近況報告している。 ③生活に使うお金は事務所金庫で保管。複数の職員で管理チェックしている。 ④職員異動などは担当者家族へお知らせしている。		すこやか便りで職員人事異動を載せて行く。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービスの質の確保・向上のために意見などを前向きに活かす姿勢・体制を設けている。意見などについては速やかに対応し運営に反映している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①運営に関すること、利用者状況、サービスの実情に関して必要時職員の意見の聞き取りがされている。 ②勉強会、カンファレンスなどの機会に実施。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	①固定化された勤務の中で対応している。 ②勤務調整しきれぬ時がある。	○	利用者のADL低下、家族面会が複数あった際に対応しきれないことのないよう調整を適切に行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	①法人内異動、私事による退職もあり職員の入れ替わりは多いがダメージを防ぐ配慮をしている。(朝のカンファレンスなど利用して検討してケア継続の取り組んでいる。) ②プリセプター制度を取り入れている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①資格取得推進 ②勤続年数に応じた研修会 ③「看取り」「救命救急法実践」 ④各種委員会での勉強会を開催してサービス向上に努めている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレス軽減に向けた取り組みは行っていない。	○	ストレス軽減に向け、話し合う機会を持ちたい
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	①目標評価制度で評価されている。 ②職員個々の努力や実績などがきちんと把握しているのか不明。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	/	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	/	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	/	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	/	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームの理念、目標にも掲げられているように人生の先輩としての敬意を持ちながら「共に楽しみ、笑い、また哀しんだりしている」自然な形で「共に生きる」姿勢に両者がなりつつある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	①一緒に本人を支えて行く気持ちの有無や大きさに家族により差がある。 ②ケアプラン説明時、面会時、すこやか便りで本人の生活を共に支援していく対等な関係を築けるよう努めている。	○	①看取りへの参加等こちらからの要望、協力を今後具体化していきたい。 ②家族側に職員に対する遠慮が感じられる。また共に支え合おうとする姿勢がお互い不十分である。より深い関係となれるよう関係づくりに職員は力を入れていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	①本人の思いが家族に伝わるよう配慮し情報の提供に努めている。 ②職員は本人と家族の間で中立的な立場を保ち、本人と家族を繋ぎ良い関係となる手助けをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	①知人、ご近所、馴染みの店、床屋へ出掛ける。 ②お墓参り ③ふるさと訪問	○	本人の希望により支援しているが機会が少ない。今後より多く機会を設けていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	①利用者が出来ること、出来ないことを知らせることで助け合い支え合う関係が出来ている。 ②生活の中で利用者間で解決できることもあり横の繋がりが強くなっている。利用者の主体性を大切に職員は黒子のような存在となり見守っている。 ③利用者間の意思疎通を図るお手伝いや、間に入り良好な関係となれる手助けをしている。	○	助け合い支えあって生活していけるよう支援する技術の話し方を身につけたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	①サービス利用の間に培われた関係性を大切に退去後も相談や支援に応じている。 ②気軽に何時でも来て頂きたいことをお伝えしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①利用者がその人らしく暮らし続ける支援に向けて一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に添えるよう努めている。 ②生活の何気ない会話からその人の考えや希望を聞き取り、ケアプランに活かすようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①新規入居される方に関しては積極的に情報収集し把握に努めている。 ②ホーム開所時入居されている方については、今までの情報が主となり新たに収集する姿勢が不足している。	○ 長く入居されている方について御家族の協力を得ながら個々の歴史やサービス利用にいたった経過を収集し今後のケアに活かしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	①朝のカンファレンス、月1回のカンファレンスで話し合いの場を設けている。 ②個々の状況を日々観察怠らず職員同士の共有または申し送りにより把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生きがい」「楽しみ」が反映されるように努めている。	地域でその人らしく暮らし続けることを支えていくための介護計画となるよう御家族と話し合う時間、機会をもっともうけていきたい。意向を反映したものとし、また本人との話し合いも行っていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	①朝カンファレンスの中で随時検討し対応をすすめている。 ②毎月モニタリングを行っているが見直し取り組みが不足している。 ③見直し以前に大きな変化や家族からの新たな要望がなく修正したケースがない。	現状に即した計画となるよう必要が生じた際は対応していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①個別記録、情報は共有している。 ②介護計画の見直しに充分活かされていない。	○	より良いケアにむけて情報共有してケアに活かしているが、もっと意見を出しあい、日々の記録や観察を活かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	/		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	図書館利用以外本人の意向や必要性に応じた他機関との連携とれていない。	○	①協力体制づくり ②利用者へ情報を提供することにより活用する機会を設けていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入浴サービス利用の検討にとどまり他のサービス利用に到っていない。	○	①重度化に伴い入浴サービスの利用 ②リハビリの利用
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働機会なし	○	地域支援包括センターとの協働機会をつくる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に、かかりつけ医の医師による医療を受けている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師と関係を築いていない。	○	認知症に関する相談ができる医師を確保し関係を築きたい。
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院による心身の大きなダメージ、ストレスや負担を軽減するため家族等と相談しながら医療機関に対して話し合いの機会を設け、看護師（管理者）が支援している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	①看取りの指針ができている。職員で話し合い方針を共有している。 ②本人がどのように最期を迎えたいと思っていたか家族より情報を得ている。		新たに入居した方については、早い段階から関係者と話し合って適切にケアできるよう対応方針の共有を図っていきたい。 以前に入られた方に関しては話し合いをしていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	①医療チームとの連携体制づくりをした。 ②初めてのケースがすすんでいる。職員の気持ちをひとつにして、チームとしての支援に取り組んでいる。 ③グループホーム全体でターミナルケア勉強会を実施した。学んだことを活かして取り組んでいる。	○	初めてのターミナルケアに取り組んでいる。何ができて何ができないか、職員に必要なこと、ホームとして必要なこと検討していく。安心と安全を確保し一日でも長くより良く暮らすためにチームで協力して支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住むことのダメージを最小限にいとめる対応として話し合いの場を設け管理者及び職員が対応している。また、その内容について文章で周知している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	①グループホームならではの温かく親しみのある会話は大切である。常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけ、対応をしないように心がけている。 ②尊厳を守れる対応を心がけている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者は自由に豊かに自分なりの生活を送っていたわけですから、一人ひとり違った対応、働きかけ、説明を行い引き出す支援に努めている。	○	自分で決めたり希望を表したりすることを大切に して利用者一人ひとりに合わせた対応方法を確立して行く。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムや、その日に本人がしたいと思っていることを大切にしている。できる限り一人ひとりのペースを大切にしよう支援している。		①職員が利用者に合わせた姿勢や実践に取り組む。 ②職員の連携、能力、技術不足。職員の都合を優先してしまうこともあるため、職員の能力向上させる。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者一人ひとりの希望にあわせて理容院の利用支援している。(家族と相談しながら店を選んで家族、店の理解を得ている。)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①準備、後片付けは一緒に行っているが職員側からの声かけで行って頂いていることが多い。 ②一人一人の好き嫌いに配慮して食事を提供している。		自然な形で準備に参加して頂けるようにしていきたい。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとり嗜好品を準備し楽しんでいる。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	①失禁の際は自室へさり気なく誘導し自信を失わない対応をしている。 ②排泄の失敗をなくす対策ではなく本人の希望や気持ち生活を最重視した支援に取り組んでいる。 ③確認の際は羞恥心プライバシーを損ねないようにしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	①入浴時間帯は勤務の関係でおおよそ決まっている。 ②入浴希望する方と、あまり入らない方にアンバランスな面がでている。前日未入浴者を優先しているため希望にそえない場合もある。		入浴時間、入浴希望する人数によっては入浴時間帯の変更も検討
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心して休んでいただけるよう個別な対応、支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	①一人ひとりの「昔とった杵柄」を把握し日常的に活かしている。また、それを楽しみにつなげている。 ②家事・畑・大工仕事など生活経験を配慮しながら得意分野や楽しみ・役割・活躍できる場面を見出すような配慮をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム預かりの小遣い以外に希望者には御家族と相談し（協力・理解を得ている。）利用者自己管理金のお金を持って頂くように支援するなど一人ひとりの希望や力量にあわせて支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の人数や、その日の都合（受診・状態変化など）により行えぬ時がある。その場合は早期実現のため予定を組み後日行う対応をしている。買い物・散歩・外食・地域行事など外出支援積極的に行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	①外食の日に行きたいお店に行く。 ②敬老の日に旅館で芝居見物、お膳でのお祝いをしている。 ③お墓参り ④ふるさと訪問		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①本人自らが連絡を取ることは少ない。 ②家族の協力が得られている方については電話の希望があった場合はプライバシーに配慮しながら個別に支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	①親戚・知人・友人との交流がある。 ②明るく出迎え、お茶など提供しゆっくり過ごしていただけるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①身体拘束は行う必要が無くおこなっていない。 ②「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しているとは思えない。		「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」再確認

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	心理的な不安・閉塞感、家族や地域の人々にもたらす印象などデメリットを認識し理解して日中施錠していない。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	①本人の体調・気持ちにそって安全への配慮 ②プライバシーに配慮しつつ所在や様子の把握に努めている。	○	ADLの低下に伴い転倒の危険性が高くなっている。その人らしく自由に豊かに自分なりの生活を送って頂けるように危険を避けられるよう今以上に職員は観察力・洞察力をみにつける。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	①針・刃物は必要に応じて提供 ②はさみは個人所有 ③利用者の状態にあわせて対応している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故の再発防止対策にむけて職員間の話し合いを重ねている。安全で自由な暮らしを送れるよう職員一同で取り組んでいる。	○	事故防止策の話し合い講じているが職員の意識にさがある。意識の統一を目指す。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急講習受講の機会があったが定期的に行われているわけではない。	○	避難訓練と合わせて救命救急の対応訓練実施していく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	①地震時、火災時の避難訓練月一回実施している。 ②災害時の2Fから安全に避難できる対策、地域の協力が得られる取り組みがない。	○	①災害対策については避難訓練(2F)実施により利用者、職員共に大きな不安を感じている。災害対策の具体的な避難方法を早急に備える。 ②今後も定期的に行い、より良い避難体制を作っていく。 ③消防署との連携をとり、訓練時参加してもらう。 ④運営推進会議を活用して、地域の消防団にも働きかける。 ⑤法人全体での備蓄はあるが、グループホーム用としてそれぞれに準備する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりに予測されるリスクについて状況変化に応じて報告、説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異常の早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①受診ノート、処方薬の説明書を読み理解に努めている。 ②飲み忘れや誤薬を防ぐため薬のダブルチェックを行い、薬に対する意識を高める対応に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	①排泄表活用 ②一人ひとりのペースに合わせた運動を勧め身体を動かす働きかけに取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を理解し、本人の習慣や有する力を活かしながら毎食後口腔の状態を良好に保つ支援をしている。義歯の手入れも充分行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して予防マニュアルがあり実行している。	○	継続する
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	①消費、賞味期限などの食品管理を行っている ②新鮮で安全な食材の活用 ③肉類、魚類、卵は別容器保存 ④毎食後の消毒、器具類消毒を行い衛生管理に努めている。 ⑤衛生管理のチェック表活用している。	○	継続する
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	①法人内の奥にあるという立地条件の悪さがあり建物が施設風ではあるが鉢物・手作り新聞受けを置いて工夫している。 ②県道沿いの看板に案内表示設置	○	①グループホームの看板を利用者と作製する。 ②グループホーム前が駐車場で味気ない。駐車スペースの検討 ③花壇を整備したり緑や木々があると建物が施設的でも雰囲気や和らぐと思われるし外部の人々が訪問しやすい。環境を整えるよう取り組む。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①観葉植物・季節に合った飾り物配置している。 ②面会簿設置スペースを四季を通した小さなギャラリースペースにして温かい空間づくりの工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	構造上縦長であり、一人になったり分散して過ごせる居場所は確保しにくい。限られたスペースではあるがソファや椅子・テーブルを置き落ち着くコーナー作りの工夫をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や品物、思い出の品物置いている。(居室が狭いので生活に必要な物など持ち込み量は限られてしまっている。)</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>①エアコンは設定温度定め使用 ②温度、湿度計活用 ③換気や空調の配慮行っている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>A D Lの状態に合わせ手すり、滑り止めシート、淵カバー、耐震板設置している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>著しい見当識障害のある方がおらず積極的な工夫は行っていない。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物の外周りは段差や急な階段があり楽しんだり安心して活動できる環境ではない。</p>	○	<p>①段差のない環境整備 ②2F非常口階段スペースにベランダを設置。ベランダへ自由に入出入りして洗濯物を干したり、鉢物を置いたりして外へ出なくても外気に触れることが出来たり、活動(活用)できるスペースになるよう改修を望む。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ② <u>利用者の2/3くらい</u> の ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① <u>毎日ある</u> ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① <u>ほぼ全ての利用者が</u> ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ② <u>利用者の2/3くらい</u> が ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③ <u>利用者の1/3くらい</u> が ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①ほぼ全ての利用者が ② <u>利用者の2/3くらい</u> が ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① <u>ほぼ全ての利用者が</u> ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① <u>ほぼ全ての家族と</u> ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③ <u>たまに</u> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ② <u>少しずつ増えている</u> ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① <u>ほぼ全ての職員が</u> ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ② <u>利用者の2/3くらいが</u> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ② <u>家族等の2/3くらいが</u> ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 個人の意見の引き出し方、希望に応える事
- ターミナルケア
- 重度化に伴う情報の収集及び職員間の知識の共有に努めている。
- 利用者「生きがい」「楽しみ」
- 個々に合った作業、レクリエーションを取り入れる。
- 個々のレベルに合わせた作業等の模索を随時進める。